

東三河振興ビジョン

【主要プロジェクト推進プラン】

～ スポーツ大会を活かした地域振興 ～

東三河ビジョン協議会

平成 27 年 3 月

目次

I 「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針	1
1 テーマの設定	1
2 位置づけ	1
3 策定主体	1
4 計画期間	1
II 東三河の現状と課題	2
1 スポーツ大会の開催状況	2
2 地域振興に活用するための課題	8
III 基本の方針と取組体系及び目標	9
1 基本の方針と取組体系（3つの方針と7つの主な取組）	9
2 目標	10
IV 主な取組内容	11
1 地域連携によるスポーツ大会の新展開	11
（1）新たなスポーツ大会の開催	11
（2）既存の大会をつなぐ連携協力の推進	12
2 世界・全国レベルのスポーツ大会の招致	13
（1）2020年東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致	13
（2）世界・全国レベルの大会の招致	13
3 スポーツ大会による地域振興	14
（1）観光との連携	14
（2）多様な主体との連携	15
（3）各種大会の充実・普及	15
V 推進体制等について	16
1 推進体制	16
2 推進プランの進捗状況の把握及び見直し	16
VI 平成26年度先導事業 スポーツイベント広域展開検討事業	17
VII 参考資料	18

I 「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針

1 テーマの設定

「主要プロジェクト推進プラン」(以下「推進プラン」という。)は、「将来ビジョン」に位置づけた重点的な施策を具体化し、着実に推進していくために策定するもので、平成 26 年度は、「将来ビジョン」に掲げた 7 つの重点的な施策の方向性の中から、戦略的に取り組むべきテーマとして「スポーツ大会を活かした地域振興」と「地域連携事業の戦略展開」を設定した。

本冊は、このうち「スポーツ大会を活かした地域振興」についてとりまとめたものである。

なお、一般的に、スポーツの意義としては、①青少年の健全育成、②地域の一体感や活力の醸成、③経済的効果、④国際的な友好と親善などが挙げられるが、ここでは、スポーツ大会を通じ、特に②地域の一体感や活力の醸成や③経済的効果につなげていくことに重点を置いてとりまとめた。

2 位置づけ

県、市町村、各種競技団体、観光関係団体、民間事業者、大学、NPO等が、共通目標のもと連携・協働して展開する実施計画

3 策定主体

東三河ビジョン協議会（県、東三河の 8 市町村、経済団体、大学等で構成）

4 計画期間

平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間

Ⅱ 東三河の現状と課題

1 スポーツ大会の開催状況

東三河地域では、各自治体によるマラソンに加え、自転車、トライアスロン、サーフィン、ヨット、また新城ラリーや奥三河地域の地形を活かしたトレイルランニングなどの特色あるスポーツ大会が数多く開催されている。

ここでは、地域振興に積極的に活かすという観点から、地域内外から幅広く参加を募るスポーツイベントや広域的な集客力の高いスポーツ競技会等についてとりまとめた。

(1) ランニング

(マラソン・駅伝)

- マラソン大会は、参加者4千人の「穂の国・豊橋ハーフマラソン」を始め、参加者のニーズに合わせた距離別コースや、気軽に走ることができるジョギング部門、また、チームで参加するリレーマラソン・駅伝など多様な参加コースが設けられ、様々なランナーが数多く参加する各地の代表的なスポーツ大会となっている。

<表> 平成26年 主なマラソン大会一覧

開催地	開催月	大会名	大会種目	参加者数	観客数
豊橋市	3月	穂の国・豊橋ハーフマラソン	ハーフ(21.0975 km)	4,342人	—
	11月	豊橋みなとシティマラソン	10km、5km、3km、2km、 ジョギング	4,004人	—
豊川市	6月	豊川リレーマラソン	フル(42.195km) ※リレー形式で走行	2,637人	—
	11月	トヨカワシティマラソン大会	10km、5km、3km、 ジョギング	2,422人	—
蒲郡市	2月	三河湾健康マラソン	10km、ジョギング	3,418人	—
新城市	1月	新城マラソン大会	10km、5km、3km、2km、 ジョギング	2,801人	—
田原市	1月	渥美半島新春マラソン大会	0.7km、0.8km、1.5km、 2.2km、3.6km	250人	—
	2月	田原健康ふれあいジョギング大会	0.8km、1.2km、1.5km、 2.0km、3.0km、5.0km	300人	—
	11月	中部・北陸実業団対抗駅伝競走大会	83.3km	133人	18,000人
豊根村	11月	とよねみどり湖ハーフマラソン	ハーフ(21.0975 km)、 10km、5km	830人	—

※観客数欄の「—」は公表数字なし。以下同様。

(トレイルランニング)

- 山道を走るトレイルランニングは、奥三河地域の地形を利用し自然を満喫しながら走ることができる競技として定着し、地域外からの参加者も多くなっている。

<表> 平成26年 主なトレイルランニング大会一覧

開催エリア	開催月	大会名	大会種目	参加者数	観客数
新城市	3月	OSJ新城トレイル	32km、11km	1,345人	—
新城市、岡崎市	9月	三河高原トレイルランニングレース	24km、9km	971人	—

<図> 開催位置と開催状況（ランニング）



(2) 自転車

(競技会)

- 豊橋競輪場を拠点とする豊橋自転車競技協会主催の大会を始めとする自転車競技が盛んな地域である。また、舗装された道路でのロードレース以外にも、奥三河地域の特性を活かしたマウンテンバイクのレースやヒルクライム[※]など、数多くの自転車競技の大会が開催されており、東三河地域の大きな特徴となっている。

＜表＞ 平成 26 年 主な自転車競技会一覧

開催地	開催月	大会名	主な競技種目	参加者数	観客数
豊橋市	3月	ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル	2時間耐久レース	612人	1,900人
	7月	豊橋自転車競技大会・市民スポーツ祭	チームスプリント、タイムトライアル (1km, 400m)	193人	—
	9月	豊橋万場クリテリウムロードレース大会	個人ロードレース、4時間チームエンデューロ	412人	—
	10月	とよはしチームピスト大会	チームスプリント、タイムトライアル (1km, 500m)	67人	—
新城市	3月	マウンテンバイクゴールドカップ	ショートクロスカントリー、2時間耐久レース	100人	—
	7月	ツール・ド・新城	3時間/2時間エンデューロ、クリテリウム	845人	—
豊根村	9月	マウンテンバイク4時間耐久レース in 茶臼山	4時間チーム耐久	100人	—

※ヒルクライム：山や丘陵の上り坂に設定されたコースを走るタイムレース。

(イベント)

- 順位やタイムを競う競技とは異なる長距離ツーリングイベントは、近年、全国各地で開催され、自転車で走りながらその土地の景色を楽しみ、コース内に設けられた休憩所で地域の特産品や郷土料理のおもてなしを受けられるなど、地域振興に寄与するスポーツイベントとして注目を集めており、東三河地域でも民間主導により活発に開催されている。

＜表＞ 平成 26 年 主なサイクリングイベント一覧

開催エリア	開催月	大会名	大会内容	参加者数	観客数
豊橋市、新城市、東栄町、豊根村	8月	とよはしとよねサイクルマラソン	約160km、約80km	150人 ※H25.8	—
田原市	10月	渥美半島ぐる輪サイクリング	約90km、約70km、約30km	2,030人	—
新城市、設楽町、東栄町、豊根村	9月	山岳グランfond三河・鳳来寺山	119.5km (獲得標高 [※] 1,991m) 90.3km (獲得標高 [※] 1,349m)	74人	—

※獲得標高：登りの標高差を足し合わせたもの。

<図> 開催位置と開催状況（自転車）



山岳グランfond三河・鳳来寺山



マウンテンバイク 4時間耐久レース in 茶臼山



ツール・ド・新城



とよはしとよねサイクルマラソン



ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル

渥美半島ぐる輪サイクリング

豊橋万場クリテリウムロードレース大会



(3) マリンスポーツ

- 蒲郡市で開催されるヨットレースやセーリング、赤羽根海岸のサーフィン大会など、マリンスポーツ大会が数多く開催され、東三河地域の大きな特徴となっている。

＜表＞ 平成 26 年 主なマリンスポーツ大会一覧

開催地	開催月	大会名	参加者数	観客数
蒲郡市	5月	エリカカップヨットレース	66艇	2,000人
田原市 (赤羽根海岸)	6月	2014 田原市長杯サーフィン大会	194人	—
	7月	プロサーフィン世界大会	144人	25,000人 ※H25.7



エリカカップヨットレース



プロサーフィン世界大会

(4) 複合

- 水泳、自転車ロードレースを複合させたアクアスロンや、長距離走も加えたトライアスロンなど、東三河地域の多様な自然を活かしたスポーツ大会も競技団体の主導により開催されている。

＜表＞ 平成 26 年 主な複合競技会一覧

開催地	開催月	大会名	参加者数	観客数
蒲郡市	6月	蒲郡オレンジトライアスロン	1,100人	15,000人
	8月	アクアスロン in ラグーナビーチ	137人	—
田原市	9月	トライアスロン伊良湖大会	925人	18,000人



蒲郡オレンジトライアスロン



トライアスロン伊良湖大会

(5) モータースポーツ

- 県営新城総合公園をメイン会場に開催されている「新城ラリー」は全日本ラリー選手権に位置付けられ、観戦者は4万人を超える一大スポーツイベントとなっている。(観客数 48,000 人※H26. 11. 1~11. 2)

また、茶臼山高原で開催される中部・近畿ラリー選手権「シロキヤラリーin 豊根」は第30回を数え、地域に定着したスポーツイベントとなっている。(参加台数 約 50 台※H26. 11)



新城ラリー



シロキヤラリーin 豊根

(6) プロバスケットボール

- 東三河地域は、日本プロバスケットボール (bj リーグ) 「浜松・東三河フェニックス」のホームタウンであり、シーズン戦が年 10 試合程度開催され、毎回、多くの観客を動員している。(東三河地域での観客数 24,000 人※H25. 10~H26. 4)

浜松、東三河で初のプロスポーツチーム ～「浜松・東三河フェニックス」



概要

- 日本プロバスケットボール (bj リーグ：全 22 チーム) 所属
- ホームタウン：浜松市、東三河 (豊橋市・豊川市・蒲郡市・新城市・田原市)、岡崎市、湖西市
- レギュラーシーズン (10 月～4 月) 試合数：52 ゲーム
- ホームでの観客動員数：約 57,000 人 (1 試合平均 2,200 人×26 試合)

地域への貢献活動

- 浜松、東三河で初のプロスポーツチームとして、年間を通じたプロスポーツを楽しむ機会を提供。
- 地域スポーツクラブ、学校部活動と連携した青少年育成、競技力向上の普及活動。
- バスケ、チアリーダーをはじめに、他スポーツへ拡充した総合スポーツへの取組の推進。
- 地域イベントや環境、社会福祉事業への積極的な参加と協力。
- スポーツ文化の推進、地域経済の活性化、街のにぎわいづくりなどへの積極的参加。
- ホーム&アウェイのゲーム開催を活用した地域 PR と他地域との交流。



地元小学生との交流会

(出典) 浜松・東三河フェニックスオフィシャルサイト、豊川市ホームページ

2 地域振興に活用するための課題

(地域連携の強化と広域的インパクトのある大会開催)

- 東三河地域の各地で開催される様々なスポーツ大会を地域全体の振興につなげていくには、地域連携の一層強化を図りつつ、集客性や情報発信力の高い広域的インパクトのあるスポーツ大会の実施が求められる。

(世界・全国レベルの大会等の戦略的な招致活動)

- 世界・全国レベルの大会を招致し、東三河地域の人々がハイレベルのプレーを観る機会を増やしスポーツに対する意識の高揚を図り、東三河地域のスポーツ振興につなげることが期待される。
- 県では、全国・世界に打ち出せるスポーツ大会を招致、育成し、地域活性化につなげていくための取組として、平成 27 年度当初に「あいちスポーツコミッション(仮称)」を設立する。
こうした動きもふまえ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの合宿受入れ等における連携協力方策の立案や、FIFA フットサルワールドカップ 2020 や関連大会の招致に向けて、東三河地域内における開催候補地の検討が求められる。

(地域振興への一層活用)

- 東三河で広域的インパクトのあるスポーツ大会を展開することや、集客性の高いスポーツ大会を実施することにより、県内外から参加者や観戦者を集め、東三河地域の特産品や観光情報の PR を強化し、地域内外の交流を図り、地域活性化につなげることが求められる。

Ⅲ 基本の方針と取組体系及び目標

1 基本の方針と取組体系（3つの方針と7つの主な取組）

（基本の方針）

- 広域的インパクトのあるスポーツ大会を実施するため、東三河の特色ある地域資源を活用したスポーツ大会の開催や、既存の大会をつなぐ連携協力の推進など地域一体となって新たな展開を進めていく。
- 「あいちスポーツコミッション（仮称）」の検討状況をふまえ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致や、各種競技団体や地元受入れ団体との連携強化など、東三河地域が連携して世界・全国レベルのスポーツ大会の招致を推進していく。
- スポーツ大会による地域振興を図るため、各種大会の充実・普及に取り組むとともに、東三河の豊富な観光資源とスポーツ大会を結びつけたスポーツ大会と観光との連携や競技団体などの多様な主体との連携を推進していく。

こうした取組を通じ、東三河の魅力を地域内外に発信し、観光振興や雇用拡大などにつなげていくことで、東三河地域の振興を図っていく。

（取組体系）

- このような基本の方針のもと、東三河のスポーツ大会を活かした地域振興を推進する取組を次のとおりとする。

〔3つの方針と7つの主な取組〕

1 地域連携によるスポーツ大会の新展開

- （1）新たなスポーツ大会の開催
- （2）既存の大会をつなぐ連携協力の推進

2 世界・全国レベルのスポーツ大会の招致

- （1）2020年東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致
- （2）世界・全国レベルの大会の招致

3 スポーツ大会による地域振興

- （1）観光との連携
- （2）多様な主体との連携
- （3）各種大会の充実・普及

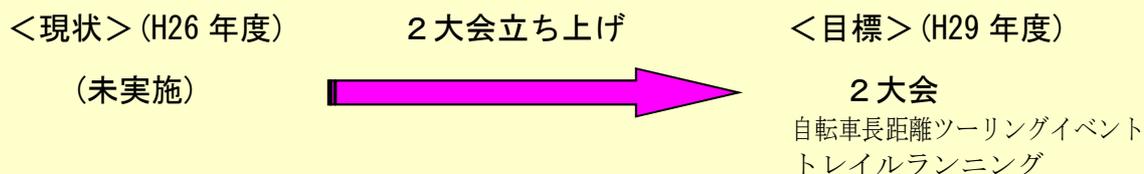
2 目標

前述した基本的方針のもと、着実に取組を展開し、スポーツ大会を活かした地域振興を推進するため、次の3つの数値目標を設定する。

目標1 新たなスポーツ大会の立ち上げ

民間事業者や競技団体、自治体などが連携し、東三河地域全体の振興につながる新たな広域的なスポーツ大会の立ち上げと継続開催を目指す。

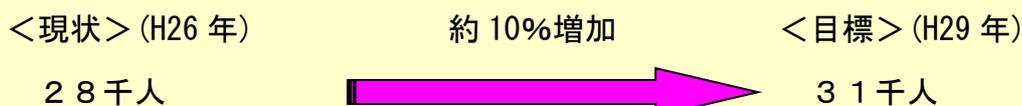
【新たなスポーツ大会数】



目標2 スポーツ大会の参加者数の増加

既存大会のレベルアップや規模拡大、大会間の連携などにより、現状の参加者数28千人を地域全体で約10%増加し、31千人を目指す。

【スポーツ大会の参加者数※】



※「1 スポーツ大会の開催状況」(p2-p7)に記載されたH26年開催の大会または今後の新規立上げの大会(目標1の新たな広域的なスポーツ大会は含まない)のうち、参加者が500人以上のもの。

目標3 スポーツ大会の観客数の増加

地域資源を活かした大会の魅力向上や会場収容力の強化、新規大会の招致などにより、現状の観客数127千人を地域全体で約5%増加し、133千人を目指す。

【スポーツ大会の観客数※】



※「1 スポーツ大会の開催状況」(p2-p7)に記載されたH26年開催の大会または今後の新規立上げの大会(目標1の新たな広域的なスポーツ大会は含まない)のうち、観客数が1,000人以上で公表されているもの。

※「浜松・東三河フェニックス」の観客数はbjリーグ2013-2014シーズン(H25.10~H26.4)で算入。